

## 「生野区西部地域教育特区構想」について寄せられたご意見とその回答

＜再編の具体的な考え方、進め方＞	
1	<p>小中学校の再編は、学校の単なる数合わせのための取組なのではないか？</p> <hr/> <p>【回 答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模な学校が教育内容の面で不十分、ということではないですが、将来にわたって、子どもの成長段階を追っていくときに、やはり、小学校の段階で学年1クラスしかなく、クラス替えができないままその状態が中学校卒業までずっと続くという環境は変えるべきだと考えています。</li> <li>・生野区では、本市の学校統廃合に関する従来からの考え方であった「規模の小さな学校から順次統廃合を実施する」ということではなく、すべての対象地域で子ども達にとってよりよい教育環境を安定的に維持していけるよう、新しく学校を再構築していくことをめざしています。</li> <li>・この教育特区構想は、大阪市が持っている教育資源・ノウハウを、「特区」という形で生野区に投入していき、地域も入っていただいて、就学前（幼稚園・保育園・保育所）の時期から義務教育を終えるまでは、こどもたちが生野区内で充実した教育環境の中で成長できるよう環境を整えることを考えていくためのものです。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中学校区を基本とした再編」というのはどういうことか？</li> <li>・再編のタイミングは異なるのか？</li> </ul> <hr/> <p>【回 答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで教育環境の再編については、A・Bブロックごとに地域・保護者の皆さんに集まっていただき意見交換を行ってきましたが、今後は、現在の中学校区をひとつの再編単位として検討することとします。</li> <li>・よりよい教育環境を安定的に維持していけるために、将来にわたって学年複数クラスを確保することを基本的に考えていきます。</li> <li>・中学校についても、学年複数クラスの維持が出来ないなど将来の持続可能な規模に課題が見込まれる場合は、中学校同士の再編も考えていきます。</li> <li>・再編のタイミングについては、新たに中学校同士を再編する場合、その対象となる小中学校の統合の時期は一緒になります。ただし、西部地域のすべての学校が同じタイミングで新学校をスタートさせるということではなく、これから話し合いを進めていく中で、まとめていく時期とか、統合内容によっては時間がかかることとなります。</li> </ul>
3	<p>「小中一貫した教育」とは具体的にどういうことなのか？</p> <hr/> <p>【回 答】</p> <p>小学校から中学校まで一貫した教育プログラム（学習指導や生徒指導等）により、小学校と中学校がより連携を深める形の教育ということです。</p> <p>なお、小中一貫教育には、市立いまみや小中一貫校のように、小学校と中学校が同じ場所にあり1～9年生が同じ学校で学ぶいわゆる「施設一体型」や小学校と中学校が別の場所にある「隣接型」「連携型」といったものがあります。</p>
4	<p>中学校区を基本に考えていくとなると、現在、同じ地域から別々の小学校・中学校へ通学している地域では、そのまま別々の学校に通うことになるのか？</p> <hr/> <p>【回 答】</p> <p>同じ小学校に通学する子どもが、卒業して別々の中学校に進学するような状態は解消したいと考えています。そのためにも、中学校区単位で保護者や住民の皆さんと議論していくことが必要と考えています。</p>

「生野区西部地域教育特区構想」について寄せられたご意見とその回答

< 教育内容について >	
5	<p>・教育特区構想により、教育体制が充実した学校とそうでない学校が混在することになるのか、区内の全学校において教育体制が充実するのか？</p> <p>-----</p> <p>【回 答】</p> <p>・予算には限りがありますので、生野区内の全ての学校を対象に一度に実施するのは非常に困難ですが、この教育特区構想では、子どもの数が急激に減少している区西部地域の全ての学校に、小中一貫した教育プログラムを導入していくこととしています。まずは、西部地域をモデルケースにして今後全地域に広げていこうという考え方で取り組んでいます。</p> <p>・制度、仕組み、考え方など大きな枠組みを学校によって全然違うものにするというのは、現実的に困難です。新たな学校ごとに保護者や住民の皆さん、学校、行政が参画した協議の場を設け、その中で新しい学校づくりについて話し合いを行いますので、個々の地域・学校ごとで、取り組み方や特色が異なることはあり得ると思われま。 (特色ある教育の内容例は、教育特区構想の2参照)</p>
6	<p>・小中一貫した教育の充実ということだが、中学校の教員免許しか持っていない先生が小学校に行って授業をすることが可能なのか？</p> <p>・「教員の増員」とあるが、これは小中一貫した教育ということで、中学校の先生が小学校に教えに行くなど教育を充実するためには先生の増員が必要になるということか？</p> <p>-----</p> <p>【回 答】</p> <p>・小学校の先生と連携し、中学校の先生が専門的なことを教えるという「チームティーチング」により、小学校と中学校が連携して専門的な授業を小学校で行うといった取組も進められています。</p> <p>・中学校は教科担任制ですが、生徒数が減って学級数が少なくなると、配置される教員の数に限りがあるため、技術家庭の科目などはそれぞれの学校だけでは教員の確保ができず、一人の先生が2つの中学校を行き来するような事態もあります。そのような状況で中学校の先生がさらに小学校まで行くことになれば、中学校の負担はますます大きくなってしまいます。また、小学校の場合は、同じ学年に複数の教員がいないことで、教育内容について互いに相談・連携できないといった状況もあります。生野区では、小中一貫した教育の導入に合わせ、このような課題を解消していきたいと考えています。</p>
7	<p>小中一貫という仕組みにはメリット、デメリットがあるということを踏まえながら、小中一貫した教育という方針を学校現場の教員の声も確認しながら進めていくべきと考える。</p> <p>-----</p> <p>【回 答】</p> <p>今後、小中一貫教育を経験された先生や現場の先生の声も聞きながら、教育特区構想を具体化させていきたいと考えています。</p>
8	<p>「特区構想」では、1クラスあたりの児童生徒数の定員は変わるのか？</p> <p>-----</p> <p>【回 答】</p> <p>・学級定員については、国の法令や府の基準を踏まえて市内一律に決定しており、生野区だけ定員を変更するというのは困難です。しかし、定員自体を変更することができなくても、習熟度別少人数授業の充実などで、子どもたちにきめ細やかな指導を行うための環境は実質的に整えることができると考えています。</p>

「生野区西部地域教育特区構想」について寄せられたご意見とその回答

<地域との関係について>	
9	<p>統廃合するのは学校だけということだが、連合振興町会の統廃合は全くないということか？</p> <p>【回答】</p> <p>連合振興町会の構成は行政が主体的に取り扱う事案ではありません。地域どうしの話し合いの結果、住民の総意で町会を統廃される（あるいは分離される）ということはあるかもしれませんが、区役所あるいは教育委員会から、学校の統合を契機として該当する町会どうしが一緒になるようにお勧めするようなことは、一切ありません。</p>
10	<p>・生野区全体の少子化が急速すぎて、学校環境だけの問題ではなく、空き家対策や交通、防災・防犯についても今話をしないと、これから先にも同じ話(学校の統廃合)を2回、3回と繰り返すことになり、保護者も地域も非常に辛い思いをすることになりかねない。</p> <p>・まち全体のことも考えて、子どもを増やすつもりで「特区」を打ち上げていただき、前向きに、子どもがどんどん生野区にやってくるようなイメージづくりもお願いしたい。</p> <p>【回答】</p> <p>・教育特区という形で学校環境を整えていくことで、多くの人々がまた生野区に住みたいと思うことにつながっていくのではないかと考えています。</p> <p>・また、教育環境の整備と併せて住環境の整備が進まなければ、魅力あるまちづくりにはつながりませんので、今後、生野区内の学校に行きたいと思ってもらえるような仕掛けを行政関係部署をはじめ保護者や住民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。</p>
<今後のスケジュール>	
11	<p>・「学校再編整備計画(案)」は、いつ頃に取りまとめようと思っているのか？</p> <p>・現段階では、何年後には結果を出すなどのスケジュールをどう考えているのか？</p> <p>【回答】</p> <p>・今年11月に実施される市長選後に改めて市長に説明し確認したうえで、取組をさらに具体化させていくこととなります。早ければ、年明けには皆さんに提示できるのではないかと思います。</p> <p>・なお、期限が決まっているというものではありませんが、それまでの間には、ブロック単位程度の規模での説明会や小グループへの出前講座などの場を設けるなどして区民の皆さんに丁寧にご説明していきます。</p> <p>・今までの小学校の統廃合の実例として、新しい学校に必要な施設等を整備するのに一般的に2～3年かかっています。「生野区小・中学校教育環境再編方針」で最短の場合のモデルスケジュールをお示ししているのでひとつの参考としていただければと思います。</p> <p>・今後、保護者や住民の皆さんと一緒に考えていただき具体的な再編内容が決まれば、移行するまでの間に、さらに検討や課題解決に向けて保護者や住民の皆さんと一緒に取組を進めていくことになると思っています。</p>
12	<p>学校再編の際には、学校どうしの行事のすり合わせや授業のカリキュラムなど、沢山のことを調整する時間が必要。現場の先生方とか地域で、移行に向けての話合いなど調整するための準備期間を十分に設けて欲しい。</p> <p>【回答】</p> <p>再編整備計画(案)を早く提示し、子どもたちには新しい環境に慣れてもらうための時間、学校には準備の期間、地域の方には一緒に考えていただける時間を出来るだけ長く作りたいと思っています。</p>